

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
総合研究報告書

発達障害診療専門拠点機関の機能の整備と安定的な運営ガイドラインの作成のための研究

研究代表者 加藤 進昌 公益財団法人神経研究所 所長

研究要旨

発達障害が社会に認知されるとともに行政への相談や医療機関への受診者が急増している一方、対応できる人材の不足と包括的な医療システムの未整備が喫緊の課題となっている。過去の厚労科研究で提言された「各地域の実状に合わせた医療システム」を実装するために、本研究では児童・思春期の拠点機関を北海道大学、成人期の拠点機関を神経研究所附属晴和病院、拠点統括を昭和大学発達障害医療研究所としてモデルを構築し全国化を見据えた運営ガイドラインの作成を目的とする。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

太田 晴久・昭和大学発達障害医療研究所 准教授

齊藤 卓弥・北海道大学医学研究院児童思春期精神医学分野 教授

A. 研究目的

(1) 児童精神科医の不足は全国に共通する課題であり、診療待ち時間の短縮は児童の発達を考えると緊急性が高い。北海道大学には専門医師養成を目的に児童思春期精神医学分野が開設され、「さっぽろ子どもの心の診療ネットワーク事業」として札幌市の中核的医療機関の役割を担っている。札幌市全域をカバーする児童精神科医療の連携とレベルアップを目的とした先駆的な試みであり、行政のバックアップのもとで相談・紹介と逆紹介を円滑に行う「コンシェルジュ事業」がスタートしている。全国の実状をアンケート調査した上で、児童思春期精神科医療の札幌での拠点を実際に運用し、多職種・機関が連携した運営ガイドラインを作成する。

(2) 昭和大学発達障害医療研究所と晴和病院では、全国に先駆けて専門外来とともに自閉スペクトラム症(ASD)に特化したデイケアを開設した。10年余で計6,000名を越える患者を受け入れており、標準ショートケアプログラムはすでに出版されている。このような当事者の生活支援・社会参加を目指す事業は他に例を見ない。本研究ではこの実績をもとに、1) 拠点機関に必要な機能について調査検討を行う。2) 東京都における拠点モデルを晴和病院に構築する。なお、児童思春期から成人期への診療移行・引継ぎも大きな問題である。そのため晴和病院では発達障害専門外来初診患者の全カルテ調査をする。また、当事者の生活支援拠点としてのグループホームの利用への提言も必要と思われることから、グループホーム利用の実情についての調査を行う。3) 支援研究会の学会化と研修会や出張講義を通して、発達障害診療の可能な医療機関を増やし、モデルの全国化

を図る。

発達障害診療拠点医療機関の整備にあたっては地域の実状を考慮する必要がある。その意味で児童と成人の領域でそれぞれ実績があり、かつ背景の異なる札幌市（地方中核都市）と東京都（首都圏）が実際の運営ガイドラインを作成する意味は大きい。なお、児童思春期から成人期への診療移行・引継ぎも大きな課題であり、昭和大学発達障害医療研究所では対象患者に中高校生を含めることも視野に入れている。当事者の生活支援拠点としてのグループホームの利用、全国化に向けて診療報酬改訂への提言も必要と思われる。同時に、海外での知見も参考にして、運用の成果を海外に発信していく。

B. 研究方法

主に東京都精神障害者共同ホーム連絡会の協力を得て、グループホームにおける発達障害事例の実数および実態の調査を行い(配布数73部、回収数40部、回収率54.8%)、得られたデータを解析する。また協力許可のあった施設にヒアリング調査(4件)を実施し、内容検討を行う。ASD以外に、学生・未就労者・就労者・ADHD向けのプログラムの拡充も図る。(加藤進昌および晴和病院研究協力者)

家族のニーズ調査を昭和大学・晴和病院利用当事者の家族を対象に行う(500家族、期待回収率50%)。家族が望むことを把握し、東京都拠点病院モデル(晴和病院)の設計に生かす。(昭和大学・晴和病院研究協力者)

発達障害専門外来全例のカルテ調査を実施する。その上で、引きこもりの実態と思春期から成人期への移行例について調査を行う。(昭和大学・晴和病院研究協力者)

札幌における児童思春期精神科医療モデルと成人期発達障害診療専門拠点のガイドラインについては別添4参照。

(倫理面への配慮)

それぞれの組織で倫理委員会から承認を得る。

C. 研究結果

グループホームに対する調査では、2018年度に東京都精神障害共同ホーム連絡会を通じてアンケート

を実施し(配布数:73部)40部を回収した(回収率54.8%)。2019年度は、回収したアンケートを解析し、回答機関の約80%に発達障害者(発達障害疑い、知的障害併存を含む)の受け入れがあることが確認された。そこで支援の難しさについて尋ねたところ、「コミュニケーションの齟齬(44%)」「感覚過敏による訴え(31%)」「利用者同士のトラブル(25%)」の順で回答が多く、その他に「生活管理能力(整理整頓や金銭管理)」「ルール厳守の困難」「体調の不安定さ」等が挙げられた。また、発達障害者を受け入れるための必要事項を尋ねたところ、「特性理解」、「医療機関や支援機関との情報共有」という意見が多かった。なお、医療機関に望む情報提供内容を尋ねた際も「特性情報」は最も回答数が多かった。一方で受け入れを行っていない約20%の機関では、受け入れを行わない理由として「発達障害者の入所希望がない」が最も多く、次に、「発達障害特性由来の対人的トラブルの懸念」「対応がわからない」が挙げられた。2019年度はアンケート調査に協力頂いた4機関にヒアリング調査を実施した(アンケート回収時の発達障害者の受け入れあり:3件なし:1件)。その結果、発達障害者の受け入れがあるグループホームでは、発達障害特性による入居者間や近隣住民とのトラブルは実際には少ないことが明らかとなった。また、アンケート回収時点では「発達障害者の受け入れなし」と回答された1機関にもヒアリング調査を打診したところ、アンケート調査以降受け入れを行うようになっていた。これは、問い合わせ数の増加により方針の変更を余儀なくされたためとのことであった。全支援機関の当事者担当支援者からは、アンケート調査に挙がっていたような発達障害特性による支援の困難さにより疲弊してしまうことがあるという話が聴かれた。ただ、当事者の障害受容が適切になされ、環境が整い、かつ家族関係が良好な場合には、特段支援の難しさは感じられないという声もあった。

発達障害の引きこもりの実態を明らかにするため、2018年度に発達外来全例のカルテ調査を実施し、2019年度より解析を行った。その結果、2013年度から始まった発達外来の初診者数(再来新患を除く)は、2019年度までで1854件であった。うち、データに不備のない1714件のカルテから確認できた引きこもりの数は240名(14%)だった。ただし、引きこもりの240名中には発達障害の診断がされなかった者も含まれていたため、発達障害の診断を受けた者のみを抽出したところ228名(13%)が該当した。このことから、晴和病院の発達外来を受診する者の約14%は引きこもり問題を抱えていること、そして引きこもり者の約95%に発達障害の診断が認められることが明らかとなった。また、発達障害の思春期から成人期への移行例についても同様にカルテ調査を行い、他の医療機関から晴和病院の発達外来につながった18歳以下の人数を調べた。データに不備のない1714件のカルテから確認できた18歳以下の人数は99名で、うち他医療機関からの紹介状を持っていたのは49名(49%)だった。なお、1714名のうち1339名が40歳未満であることも合わせて確認された。

成人期発達障害拠点機関として機能を果たすべく、ASD専門プログラムの普及推進活動を継続して行ってきた。2018年度と2019年度ともに15機関の見学があった。プログラム終了後には担当スタッフと見学者との間に小ミーティングを設けて質疑応答を行うなど、プログラムへの理解を深めるための取組も行

った。

プログラム拡充への取り組みとしては、2018年度に引き続き2019年度もADHD専門プログラムを実施した(全12回、2年間延べ参加者266人)。また、発達障害と診断された未就労者を主な対象とする「就活講座」を、全13回を1クールとして実施した(一回当たりの平均参加者数約10人)。この講座を經由して就職あるいは就労支援機関につながった2018年度の患者数は総参加者数29%、2019年度は43%であった。さらに、2018年度より専門プログラム修了者を対象とするピアサポートプログラム中心の「マスターコース」を新設した。2018年度はASD専門プログラム卒業生24名中17名が、2019年度は9名中5名が本コースへ移行をし、デイケアプログラムに継続的に参加している。毎回の出席率は6割を超えている。

成人期の発達障害家族を対象とした家族懇談会を2018年度より計4回実施し、延べ146名の参加者があった。また、2019年度からは家族が主体となった家族会を発足させるべく、家族会準備会を開始した。月一回の定例会議では毎回約12名の家族の参加がある。

なお、2019年度より、家族懇談会と家族会準備会の参加対象者をデイケアプログラム参加者に限定することなく、外来患者に広げた。

D. 考察

グループホームに対する調査からは、対人トラブルを避け発達障害者にとって安心した環境をつくるためには、個別性を高めた環境を用意することと支援者のQOLを保つことが重要であることが示唆される。そのためには、当事者に関する正確かつ詳細な医療情報が必須であり、関連機関との密接な連携の重要性が改めて確認された。なお、ヒアリング調査では、「医療機関との情報共有は書面だと情報量が限られるため、対面や電話での連携を望む」という声があったことから、グループホームと医療機関とのより直接的な連携がポイントになると思われる。カルテ調査の結果より、引きこもりの問題を抱えている95%に発達障害の診断が出ている。このため、発達外来における引きこもりに対する支援策を考えていくことの必要性を示しているだろう。また、受診者(思春期)の約半数が思春期から成人期にかけての継続的な支援を受けていることが確認された。このことから、発達障害は一過性の支援ではなく、ライフサイクルに合わせた継続的な支援の必要性があると考えられる。改めて発達障害のトランジションについて考えるきっかけとなる結果といえるだろう。

ASD専門プログラムの普及推進活動として、外部見学者の受け入れを積極的に行っている。見学終了後の小ミーティングでは専門プログラムの進め方や発達障害者支援についての質問があり、質の高い意見交換が可能となっている。発達障害者支援の質を高めるためには、他機関同士が知り合う機会を設けることは重要性が示唆される。

プログラム拡充への取り組みとして、ADHD専門プログラムは、基本的な疾病理解から障害特性由来の困り感に対するコーピング行動の検討までを取り扱う。このため、ADHD患者に対する入門コースと位置付けることが可能であり、ASD専門プログラムと双璧をなすプログラムといえるだろう。この両者が効率的に機能することで、成人期の発達障害者に対する支援の質はより一層高まると考えられる。晴和病院

でのADHD専門プログラムは2015年より開始し、プログラム内容を改変しながら継続している。2020年度からは、当該プログラムの卒業生も参加可能な回を設け、フォローアップ体制を整える予定である。継続した支援体制を行う際の一つの形態として、今後が期待されるだろう。また、「就活講座」は就職活動に関する知識の習得と就労に向けた関心を高めることに寄与しており、先読みが苦手な当事者にとって予測の難しい就職活動の全体像把握を可能にしたと推察される。このプログラムを通して就職あるいは就労支援機関につながった患者数は、2018年度では登録者の29%、2019年度では43%と増加傾向にある。さらに、「マスターコース」の参加者数が高い数値で維持していることは、居場所及び実生活での具体的な困りごとを互いに分かち合う場を提供する機能を担っていると推察される。また、ASD専門プログラムから「マスターコース」への移行希望者が毎年度一定数存在すること及び出席率が高い数値で維持されていることは、ルーティン化された予定をこなしていく当事者の障害特性の現れと考えられる。当事者を支援する際には可能な限り変化の少ない支援環境を整え維持していくことの重要性が改めて確認できたと言える。

年2回実施している家族懇談会は参加者の満足度は高く、今まで家族の中で抱え込んでいた悩みを分かち合うことで助けられている家族がいることが分かってきた。また、家族同士の繋がりができることそのものが持つ効果も実感される。ただ、開催時間には限りがあり、「時間が足りない」という声が多く聞かれている。しかし、医療機関が家族を支援していくことには物理的にもコスト面でも限界がある。このため、家族が主体となった家族会の設立を進めている。家族会が設立されることで、家族同士が助け合える家族組織として機能し、より家族支援の質を高めることにつながると考える。また、2019年度から外来患者にも参加の枠を広げたことで、デイケアプログラム参加家族とは違った悩み、または、デイケアプログラム参加家族がかつて抱えていた悩みが明らかとなった。家族が置かれている状況によって現時点での悩みは異なるが、“発達障害患者の家族”という共通点は、そのギャップさえも打ち砕くと考えられる。

E. 結論

晴和病院に東京都拠点モデルを構築し、相談（家族・法律など）受付機能とともに、デイケアと一体化したグループホームの設置を目指す。ハードウェアが間に合わなければ既存のグループホームとの連携も目指す。発達障害者に対する支援を広げるために、プログラムの拡充を図った。今後も継続して検討を重ねていく予定である。また、引きこもりの実態についてカルテ調査をし、発達障害との関連の強さを確認した。さらに、思春期・成人期の移行例についてもカルテ調査を行い、改めて発達障害のトランジションについて検討することの重要性が示唆された。

F. 研究発表

1. 論文発表

1) Doi H, Fujisawa TX, Iwanaga R, Matsuzaki J, Kawasaki C, Tochigi M, Sasaki T, Kato N, Shinohara K. Association between single nucleotide polymorphisms in estrogen

receptor 1/2 genes and symptomatic severity of autism spectrum disorder. *Research in Developmental Disabilities*, 82: 20-26, 2018. doi: 10.1016/j.ridd.2018.02.014.

- 2) Itahashi T, Mimura M, Hasegawa S, Tani M, Kato N, Hashimoto R. Aberrant cerebellar-default-mode functional connectivity underlying auditory verbal hallucinations in schizophrenia revealed by multi-voxel pattern analysis of resting-state functional connectivity MRI data. *Schizophrenia Research*, 197: 607-608, 2018. doi: 10.1016/j.schres.2018.02.013.
- 3) Yamagata B, Itahashi T, Nakamura M, Mimura M, Hashimoto R, Kato N, Aoki Y. White matter endophenotypes and correlates for the clinical diagnosis of autism spectrum disorder. *Social Cognitive and Affective Neuroscience*, 13(7): 765-773, 2018. doi: 10.1093/scan/nsy048.
- 4) Yamashita M, Yoshihara Y, Hashimoto R, Yahata N, Ichikawa N, Sakai Y, Yamada T, Matsukawa N, Okada G, Tanaka SC, Kasai K, Kato N, Okamoto Y, Seymour B, Takahashi H, Kawato M, Imamizu H. A prediction model of working memory across health and psychiatric disease using whole-brain functional connectivity. *eLIFE*, e38844, 2018. doi: 10.7554/eLife.38844.
- 5) Tei S, Fujino J, Hashimoto R, Itahashi T, Ohta H, Kanai C, Kubota M, Nakamura M, Kato N, Takahashi H. Inflexible daily behaviour is associated with the ability to control an automatic reaction in autism spectrum disorder. *Scientific Reports*, 8(1):8082, 2018. doi: 10.1038/s41598-018-26465-7.
- 6) Fujino J, Tei S, Itahashi T, Aoki Y, Ohta H, Kanai C, Kubota M, Hashimoto R, Nakamura M, Kato N, Takahashi H. Sunk cost effect in individuals with autism spectrum disorder. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 49(1):1-10, 2018. doi: 10.1007/s10803-018-3679-6.
- 7) Yamagata B, Itahashi T, Fujino J, Ohta H, Nakamura M, Kato N, Mimura M, Hashimoto R, Aoki Y. Machine learning approach to identify a resting-state functional connectivity pattern serving as an endophenotype of autism spectrum disorder. *Brain Imaging and Behavior*, 13(6): 1689-1698, 2019. doi: 10.1007/s11682-018-9973-2.
- 8) Fujino J, Tei S, Itahashi T, Aoki Y, Ohta H, Kubota M, Isobe M, Hashimoto R, Nakamura M, Kato N, Takahashi H. Need for closure and cognitive flexibility in individuals with autism spectrum disorder: A preliminary study. *Psychiatry Research*, 271:247-252, 2019. doi: 10.1016/j.psychres.2018.11.057.
- 9) Togo S, Itahashi T, Hashimoto R, Cai C, Kanai C, Kato N, Imamizu H. Fourth finger dependence of high-functioning autism spectrum disorder in multi-digit force coordination. *Scientific Reports*, 9: 1737,

2019. doi: 10.1038/s41598-018-38421-6.
- 10) Yamashita A, Yahata N, Itahashi T, Lisi G, Yamada T, Ichikawa N, Takamura M, Yoshihara Y, Kunimatsu A, Okada N, Yamagata H, Matsuo K, Hashimoto R, Okada G, Sakai Y, Morimoto J, Narumoto J, Shimada Y, Kasai K, Kato N, Takahashi H, Okamoto Y, Tanaka C Saori, Kawato M, Yamashita O, Imamizu H. Harmonization of resting-state functional MRI data across multiple imaging sites via the separation of site differences into sampling bias and measurement bias. *PLOS Biology*, 17: e3000042, 2019. doi: 10.1371/journal.pbio.3000042.
 - 11) Tei S, Fujino J, Itahashi T, Aoki Y, Ohta H, Kubota M, Hashimoto RI, Nakamura M, Kato N, Takahashi H. Egocentric biases and atypical generosity in autistic individuals. *Autism Research*, 12: 1598-1608, 2019. doi: 10.1002/aur.2130.
 - 12) Honma M, Itoi C, Midorikawa A, Terao Y, Masaoka Y, Kuroda T, Futamura A, Shiromaru A, Ohta H, Kato N, Kawamura M, Ono K. Contraction of distance and duration production in autism spectrum disorder. *Scientific Reports*, 9: 8806, 2019. doi: 10.1038/s41598-019-45250-8.
 - 13) Itoi C, Kato N, Kashino M. People with autism perceive drastic illusory changes for repeated verbal stimuli. *Scientific Reports*, 9: 15866, 2019. doi: 10.1038/s41598-019-52329-9.
 - 14) Yamagata B, Itahashi T, Fujino J, Ohta H, Takashio O, Nakamura M, Kato N, Mimura M, Hashimoto RI, Aoki YY. Cortical surface architecture endophenotype and correlates of clinical diagnosis of autism spectrum disorder. *Psychiatry and Clinical Neuroscience*, 73: 409-415, 2019. doi: 10.1111/pcn.12854.
 - 15) Fujino J, Tei S, Itahashi T, Aoki YY, Ohta H, Kubota M, Hashimoto RI, Nakamura M, Kato N, Takahashi H. Impact of past experiences on decision-making in autism spectrum disorder. *European Archives of Psychiatry and Clinical Neuroscience*, 2019. [Online ahead of print] doi: 10.1007/s00406-019-01071-4.
 - 16) Doi H, Kanai C, Tsumura N, Shinohara K, Kato N. Lack of implicit visual perspective taking in adult males with autism spectrum disorders. *Research in Developmental Disabilities*, 99, 2020. [Online ahead of print] doi: 10.1016/j.ridd.2020.103593.
 - 17) Tateno M, Tateno Y, Kamikobe C, Monden R, Sakaoka O, Kanazawa J, Kato TA, Saito T. Internet Addiction and Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder Traits among Female College Students in Japan. *Journal of the Korean Academy of Child and Adolescent Psychiatry*, 29(3): 144-148, 2018.
 - 18) Okumura Y, Usami M, Okada T, Saito T, Negoro H, Tsujii N, Fujita J, Iida J. Prevalence, incidence and persistence of ADHD drug use in Japan. *Epidemiology and Psychiatric Sciences*, 28(6): 692-696, 2018. doi:10.1017/S2045796018000252.
 - 19) Okumura Y, Usami M, Okada T, Saito T, Negoro H, Tsujii N, Fujita J, Iida J. Glucose and Prolactin Monitoring in Children and Adolescents Initiating Antipsychotic Therapy. *Journal of Child and Adolescent Psychopharmacology*, 28(7): 454-462, 2018. doi:10.1089/cap.2018.
 - 20) Kooij JJS, Bijlenga D, Salerno L, Jaeschke R, Bitter I, Balázs J, Thome J, Dom G, Kasper S, Nunes Filipe C, Stes S, Mohr P, Leppämäki S, Casas M, Bobes J, McCarthy JM, Richarte V, Kjems Philipsen A, Pehlivanidis A, Niemela A, Styr B, Semerci B, Bolea-Alamanac B, Edvinsson D, Baeyens D, Wynchank D, Sobanski E, Philipsen A, McNicholas F, Caci H, Mihailescu I, Manor I, Dobrescu I, Saito T, Krause J, Fayyad J, Ramos-Quiroga JA, Foeken K, Rad F, Adamou M, Ohlmeier M, Fitzgerald M, Gill M, Lensing M, Motavalli Mukaddes N, Brudkiewicz P, Gustafsson P, Tani P, Oswald P, Carpentier PJ, De Rossi P, Delorme R, Markovska Simoska S, Pallanti S, Young S, Bejerot S, Lehtonen T, Kustow J, Müller-Sedgwick U, Hirvikoski T, Pironti V, Ginsberg Y, Félégyházy Z, Garcia-Portilla MP, Asherson P. Updated European Consensus Statement on diagnosis and treatment of adult ADHD. *European Psychiatry*, 56(2): 14-34, 2019. doi: 10.1016/j.eurpsy.2018.11.001.
 - 21) Saito T, Reines EH, Florea I, Dalsgaard MK. Management of Depression in Adolescents in Japan. *Journal of Child and Adolescent Psychopharmacology*, 29(10): 753-763. 2019. doi: 10.1089/cap.2019.0023.
 - 22) Tsuji N, Okada T, Usami M, Kuwabara H, Fujita J, Negoro H, Kawamura M, Iida J, Saito T. Effect of Continuing and Discontinuing Medications on Quality of Life After Symptomatic Remission in Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder: A Systematic Review and Meta-Analysis. *The Journal of Clinical Psychiatry*, 81(3): 19r13015. 2020. doi: 10.4088/JCP.19r13015.
 - 23) 加藤進昌. 大人の発達障害とは 診断の混乱を克服するために . 保健の科学 , 60(1): 45-49, 2018.
 - 24) 金井智恵子, 加藤進昌. 第12章 成人期の発達障害 ASD の最近の研究と臨床報告について . 発達障害の早期発見と支援へつなげるアプローチ , 177-193, 2018.
 - 25) 加藤進昌. 発達障害 . ドクターサロン , 62(5): 37-41, 2018.
 - 26) 加藤進昌. 国際自閉症カンファレンス東京 2017 の開催 . 発達障害白書 2019 年版 , 164, 2018
 - 27) 太田晴久, 丹治和世, 橋本龍一郎, 加藤進昌 . アスペルガー症候群の臨床と脳画像研究 . *BRAIN and NERVE*, 70(11): 1225-1236, 2018.

- 28) 太田晴久. 第5章: 発達障害・児童思春期 Q56. 成人しているが自分は ADHD ではないかと心配している人が来院しました。どのように診断したらよいのでしょうか? 精神科臨床 144 の Q&A 精神科治療学, 第33巻増刊号, 130-131, 2018.
- 29) 太田晴久. 自閉スペクトラム症. 英語教育, 2018年5月号, 50-51, 2018.
- 30) 横井英樹. 自閉スペクトラム症を持つ人の理解. 英語教育, 2018年6月号, 50-51, 2018.
- 31) 加藤進昌. 英語教育と発達障害. 英語教育, 2019年3月号, 50-51, 2019.
- 32) 太田晴久(監修), 横井英樹, 五十嵐美紀(監修協力). 職場の発達障害 自閉スペクトラム症編, 講談社, 2019.
- 33) 太田晴久(監修), 横井英樹, 五十嵐美紀(監修協力). 職場の発達障害 ADHD 編, 講談社, 2019.
- 34) 五十嵐美紀, 横井英樹, 小峰洋子, 水野健, 中村善文, 岩波明. 成人 ADHD のデイケア支援. 精神科, 34(5): 452-456, 2019.
- 35) 横井英樹, 五十嵐美紀, 加藤進昌. 発達障害を対象としたデイケアでのプログラム. 産業精神保健, 27巻(特別): 90-94, 2019.
- 36) 安宅勝弘, 相澤直子, 丸田伯子, 河合雅代, 田川杏那, 太田晴久. 大学における発達障害学生支援に関するニーズ調査 障害学生支援部門を対象とした調査の結果から. 大学のメンタルヘルス, 3: 144-150, 2019.
- 37) 河合雅代, 安宅勝弘, 相澤直子, 田川杏那, 太田晴久, 丸田伯子. 発達障害学生支援に関する教職員のニーズについての検討 教職員向けアンケート調査の結果から. 大学のメンタルヘルス, 3: 151-158, 2019.
- 38) 田川杏那, 太田晴久, 川嶋真紀子, 今井美穂, 反町絵美, 牧山優, 安宅勝弘, 相澤直子, 丸田伯子, 河合雅代, 横井英樹, 五十嵐美紀, 小峰洋子, 加藤進昌. 医療機関における発達障害学生の支援に関するニーズ調査. 大学のメンタルヘルス, 3: 159-164, 2019.
- 39) 加藤進昌. 成人の発達障害 ASD を中心に. 精神科臨床 Legato, 6(1): 12-16, 2020.
- 40) 水野健. 発達障害デイケア. 発達障害者支援ハンドブック 2020, 46-47, 東京都福祉保健局, 2020.
- 41) 加藤進昌. 発達障害支援の現状とこれから. 心と社会, 51(1)(179): 4-5, 2020.
- 42) 五十嵐美紀, 水野健. 発達障害診療専門拠点機関の全国的な整備に向けてのガイドライン 成人発達障害者について. 心と社会, 51(1)(179): 13-18, 2020.
- 43) 太田晴久. ひきこもりと発達障害. 心と社会, 51(1)(179): 38-43, 2020.
- 44) 村上あゆみ, 牧山優. デイケアでの就労支援プログラムについて. 心と社会, 51(1)(179): 44-50, 2020.
- 45) 満山かおる, 川嶋真紀子. 心理カウンセリングの可能性 ~ 検査入院から ~. 心と社会, 51(1)(179): 51-56, 2020.
- 46) 大岡由理子, 福島真由, 水野健. 大人になった自閉症者を支えるプログラム. 心と社会, 51(1)(179): 64-69, 2020.
- 47) 遠藤由美子, 今井美穂. 発達障害者の自立へ向けて 調理プログラム. 心と社会, 51(1)(179): 84-90, 2020.
- 48) 横井英樹. 地域での発達障害支援の取り組み 全国状況. 心と社会, 51(1)(179): 98-103, 2020.
- 49) 桑野大輔. 東京都成人期発達障害者生活支援モデル事業 成人期発達障害専門医療機関の取り組み. 心と社会, 51(1)(179): 19-24, 2020.
- 50) 村上あゆみ, 牧山優. デイケアでの就労支援プログラムについて. 心と社会, 51(1)(179): 44-50, 2020.
- 51) 満山かおる, 川嶋真紀子. 心理カウンセリングの可能性. 心と社会, 51(1)(179): 51-56, 2020.
- 52) 市川宏伸, 齊藤万比古, 齊藤卓弥, 仮屋暢聡, 小平雅基, 太田晴久, 岸田郁子, 三上克央, 太田豊作, 姜昌勲, 小坂浩隆, 堀内史枝, 奥津大樹, 藤原正和, 岩波明. 成人用 ADHD 評価尺度 ADHD-RS-IV with adult prompts 日本語版の信頼性および妥当性の検討. 精神医学, 60(4): 399-409, 2018.
- 53) 館農勝, 中野育子, 白木淳子, 館農幸恵, 金澤潤一郎, 白石将毅, 河西千秋, 氏家武, 齊藤卓弥. 成人期 ADHD 症状評価スケール Hokkaido ADHD Scale for Clinical Assessment in Psychiatry (HASCAP) について. 精神医学, 60(12): 1403-1411, 2018.
- 54) 齊藤卓弥. 子どものうつ病に対する抗うつ薬の使用. 臨床精神薬理, 21: 99-102, 2018.
- 55) 齊藤卓弥. ADHD の病態・遺伝要因と環境要因. 最新医学別冊発達障害, 62-69, 2018.
- 56) 齊藤卓弥. 小児期の気分障害の過剰診断を防ぐために. 精神科, 33(3): 267-269, 2018.
- 57) 齊藤卓弥. 注意欠如多動症 (ADHD) 子どもから成人への連続性 最近の大規模コホート研究結果から考える. 日本精神神経学会誌, 120(11): 1006-1010, 2018.
- 58) 齊藤卓弥, 柳生一白. 第2章 双極性障害の薬物療法. 児童・青年期精神疾患の薬物治療ガイドライン(中村和彦編), じほう, 34-39, 2018.
- 59) 齊藤卓弥. XVIII. 精神疾患(社会心理学的疾患) 382. うつ病性障害・うつ状態. 小児疾患の診断治療基準 第5版, 小児内科 2018年50巻増刊号, 東京医学社, 838-840, 2018.
- 60) 齊藤卓弥. 注意欠如・多動症(成人). 今日の治療指針(総編集: 福井次矢, 高木誠, 小室一成), 医学書院, 1056, 2019.
- 61) 齊藤卓弥. 発達の見点から見たサイコセラピーとエビデンス. 日本サイコセラピー学会誌, 19(1): 13-10, 2019.
- 62) 齊藤卓弥. DSM-5とICD-11における神経発達症. 分子精神医学, 19(4): 27-33, 2019.

2. 学会発表

< 口頭発表 >

- 1) 加藤進昌. 成人期の発達障害者支援 ~ 支援は発達障害を知ってから始まる ~. (株)E パートナー社内研修会, 東京・(株)E パートナー東京研修室, 2018/6/8
- 2) 加藤進昌. 大人の発達障害への理解と対応 ~ 特性を知り、良いところを伸ばす ~. 消防大学校幹部科講義, 東京・総務省消防庁消防大学校, 2018/6/25
- 3) 加藤進昌. 成人の発達障害への理解とサポート 専門外来とデイケアでの 10 年をふりかえっ

- て、福井県医師会産業医研修会，福井・福井県医師会館，2018/7/1
- 4) 加藤進昌．大人の発達障害への理解．消防大学校幹部科講義，東京・総務省消防庁消防大学校，2018/8/31
 - 5) 加藤進昌．大人の発達障害外来とデイケア～10年の経験からわかってきたこと～．医療法人栄仁会宇治おうばく病院成人発達障害研修会，京都・宇治おうばく病院，2018/9/7
 - 6) 加藤進昌．「大人の発達障害」～その実像と対応～．(株)E パートナー企画セミナー，東京・TKP 東京駅セントラルカンファレンスセンター，2018/10/12
 - 7) 加藤進昌．発達障害がある人への成人期デイケアの取り組みと就労について．平成 30 年度広島県発達障害児・者診療医養成研修会，広島・広島医師会会館，2018/10/14
 - 8) 加藤進昌．発達障害について．新宿区高齢者総合相談センター研修会，東京・新宿区高齢者総合相談センター，2018/10/22
 - 9) 加藤進昌．成人発達障害者支援について．第 6 回成人発達障害支援研究会，北海道・さっぽろ駅前クリニック日興ビル分院，2018/10/27（教育講演）
 - 10) 五十嵐美紀．医療機関における大学生・引きこもり支援の実例 第 6 回成人発達障害支援学会，北海道・さっぽろ駅前クリニック日興ビル分院 2018/10/27-28
 - 11) 加藤進昌．大人の発達障害への理解．消防大学校幹部科講義，東京・総務省消防庁消防大学校，2018/10/29
 - 12) 加藤進昌．成人の発達障害と障害者歯科．第 35 回日本障害者歯科学会総会，東京・中野サンプラザ，2018/11/17
 - 13) 加藤進昌．大人の発達障害の現状と課題．日本科学技術ジャーナリスト会議 2018 年 11 月例会，東京・日本プレスセンタービル，2018/11/29
 - 14) 太田晴久．医療機関における発達障害学生の支援 当事者・家族へのニーズ調査の結果からみえること．第 40 回全国大学メンタルヘルス学会，岡山・岡山大学創立五十周年記念館，2018/12/6
 - 15) 安宅勝弘，相澤直子，丸田伯子，田川杏那，太田晴久．大学における発達障害学生支援に関するニーズ調査 障害学生支援組織を対象とした調査の結果から．第 40 回全国大学メンタルヘルス学会，岡山・岡山大学創立五十周年記念館，2018/12/6
 - 16) 加藤進昌．大人の発達障害への理解．消防大学校幹部科講義，東京・総務省消防庁消防大学校，2019/1/11
 - 17) 加藤進昌．発達障害と共に、どのように生きてゆくか．成田市ことばと心を育む親の会講演会，千葉・成田市役所，2019/1/12
 - 18) 加藤進昌．発達障害を抱えている、もしくは発達障害がありそうな親への支援について．「新生児・妊産婦訪問指導事業」における訪問指導担当者研修会，東京・小平市健康センター，2019/1/21
 - 19) 加藤進昌．大人の発達障害 特性の理解と生活支援．大和市健康福祉部障がい福祉課こころの健康講座，神奈川・大和市勤労福祉会館，2019/2/15
 - 20) 加藤進昌．大人の発達障害～新しい精神科医療の可能性～．(一社)東京精神神経科診療所協会 2 月例会兼第 48 回精神科外来薬物療法研究会，東京・ハイアットリージェンシー東京，2019/2/16
 - 21) 加藤進昌．発達障害の生物学的背景．平成 30 年度東京都発達障害者支援体制整備推進事業～医療従事者向け講習会～，東京・東京都議会議事堂 1 階都民ホール，2019/2/17
 - 22) 加藤進昌．発達障害はこれまでわかった～引きこもりとの接点を求めて～．明治安田こころの健康財団集中講座 1，東京・明治安田こころの健康財団，2019/2/23
 - 23) 加藤進昌．発達障害の診断と治療的アプローチ～障害者から納税へ～．明治安田こころの健康財団集中講座 2，東京・明治安田こころの健康財団，2019/2/24
 - 24) 加藤進昌．アスペルガー症候群の臨床と脳画像研究～発達障害の病態解明を目指して～（基調講演）.AMED 平成 30 年度 脳とこころの研究 第四回公開シンポジウム「脳とこころの発達と成長」，東京・イイノホール，2019/3/2（基調講演）
 - 25) 加藤進昌．障害の理解とコミュニケーション～大人の発達障害～．世田谷区福祉人材育成・研修センター 平成 30 年度多職種で学ぶ対人援助技術研修，東京・三茶しゃれなあどホール，2019/3/11
 - 26) 加藤進昌．大人の発達障害とは何か～障害者とともに働く際のケア～．外務省・障害者雇用に関する一般省員向け研修会，東京・外務省講堂，2019/4/10
 - 27) 横井英樹，五十嵐美紀．ASD．外務省・障害者雇用に関する一般省員向け研修会，東京・外務省講堂，2019/4/10
 - 28) 横井英樹，五十嵐美紀．東急エイジェンシー研修会，東京，2019/4/18
 - 29) 加藤進昌．大人の発達障害とメンタルヘルス．第 30 回日本医学会総会 2019 中部，愛知・名古屋国際会議場，2019/4/28
 - 30) 加藤進昌．成人の発達障害．「成人発達障害」講演会，東京・稲城台病院，2019/6/10
 - 31) 五十嵐美紀．上智大学講演，東京，2019/6/11
 - 32) 加藤進昌．大人の発達障害への理解．消防大学校幹部科講義，東京・総務省消防庁消防大学校，2019/7/11
 - 33) 太田晴久，川嶋真紀子，牧山優，今井美穂．発達障害を持つ大学生への支援．筑波大学精神神経科勉強会，茨城・筑波大学附属病院，2019/7/8（教育講演）
 - 34) 加藤進昌．大人の ADHD をめぐって～成長による変化、ASD との差異、薬物反応性～．外務省・障害者雇用に関する一般省員向け研修会，東京・外務省講堂，2019/7/10
 - 35) 横井英樹，五十嵐美紀．ADHD．外務省・障害者雇用に関する一般省員向け研修会，東京・外務省講堂，2019/7/10
 - 36) 水野健．社会福祉法人めぐはうず法人内職員研修，東京，2019/7/19
 - 37) 横井英樹．第 1 回日本成人期発達障害臨床医学会，東京・昭和大学上條記念館，2019/7/27
 - 38) 横井英樹．2019 年度精神保健福祉研修（前期）

- 地域援助技術研修・初級 , 2019/7/29
- 39) 横井英樹 . 岐阜県発達支援センター講演 , 2019/8/8
- 40) 加藤進昌 . 大人の発達障害の理解と付き合い方 ~ 分類と診断基準、治療、生活支援・就労支援・家族支援 ~ . 福島県看護協会一般研修, 福島・福島県看護会館みらい, 2019/8/30
- 41) 加藤進昌 . 大人の発達障害への理解 . 消防大学校幹部科講義, 東京・総務省消防庁消防大学校, 2019/9/6
- 42) 横井英樹 . 高知・四万十市講演, 2019/9/26
- 43) 加藤進昌 . 大人のアスペルガー症候群とは何か ~ 脳内メカニズムの解明からリハビリテーションまで ~ . 2019 年度都医学研都民講座「自閉症の理解と回復を目指して」, 東京・烏山区民会館ホール, 2019/9/27
- 44) 加藤進昌 . 発達障害支援のこれからを考える . 第 7 回成人発達障害支援学会, 愛知・金城学院大学アニー・ランドルフ記念講堂, 2019/10/26 (記念講演)
- 45) 太田晴久 . 発達障害とひきこもり . 第 7 回成人発達障害支援学会, 愛知・金城学院大学, 2019/10/26 (シンポジウム)
- 46) 太田晴久 . 成人期発達障害 ~ 診断と支援 ~ . 第 7 回成人発達障害支援学会, 愛知・金城学院大学, 2019/10/27 (ランチョンセミナー)
- 47) 太田晴久, 横井英樹 . パブリックヘルスリサーチ 2019 年度健康教育研修会, 2019/11/1
- 48) 加藤進昌 . アスペルガー症候群の脳科学 ~ 脳画像研究からリハビリテーションまで ~ . 埼玉医科大学卒業教育プログラム学術集会, 埼玉・埼玉医科大学, 2019/11/18
- 49) 牧山優 . 発達障害を有する大学生へのショートケアプログラム開発と包括的支援システムの構築 . 医療機関におけるプログラムの実践 . 第 41 回全国大学メンタルヘルス学会総会、大阪・大阪大学, 2019/12/5-6 (一般研究発表)
- 50) 今井美穂, 横井英樹, 五十嵐美紀, 水野健, 満山かおる, 牧山優, 川嶋真紀子, 太田晴久 . 発達障害を有する学生向けプログラムの開発のためのニーズ調査 . 第 41 回全国大学メンタルヘルス学会, 大阪・大阪大学, 2019/12/5-6 (一般研究発表)
- 51) 加藤進昌 . 大人の発達障害 ~ その理解と自立を目指して ~ . 第 769 回浅草寺仏教文化講座, 東京・丸の内マイプラザホール, 2019/12/20
- 52) 加藤進昌 . 発達障害 (ADHD) ~ 脳最新の薬物治療及び患者コミュニケーションに関する研修 ~ . 日本精神薬学会 Web セミナー, 2019/12/2 ~ 2020/5/29
- 53) 加藤進昌 . 発達障害のコアな障害は何か ~ 社会性の障害ではわからない ~ . 明治安田こころの健康財団集中講座 1, 東京・明治安田こころの健康財団, 2020/1/18
- 54) 加藤進昌 . 発達障害の過剰診断を克服するには . 明治安田こころの健康財団集中講座 2, 東京・明治安田こころの健康財団, 2020/1/19
- 55) 加藤進昌 . 成人期発達障害者支援における支援ネットワークの構築 . 東京都発達障害者支援体制整備推進事業シンポジウム, 東京・都民ホール, 2020/1/31 (基調講演)
- 56) 加藤進昌 . 発達障害の基礎知識と接し方 . 令和元年度新宿区精神保健講演会, 東京・新宿区役所二分庁舎分館, 2020/2/10
- 57) 加藤進昌 . 大人の発達障害 . 消防大学校幹部科講義, 東京・総務省消防庁消防大学校, 2020/2/17
- 58) 横井英樹 . デイケアでの発達障害の就労支援と院内雇用への取り組み . 精神・発達障害者職場定着サポートスキルアップ研修, 栃木・とちぎ青少年センター, 2020/2/21 (実務研修)
- 59) 横井英樹 . ADHD の方への支援について . 東京・東京都立精神保健福祉センター, 2020/2/27 (学習会講師)
- 60) 反町絵美 . 発達障害患者の家族支援 家族会立ち上げに向けての取り組み報告 . 第 21 回日本子ども健康科学会学術大会, 東京・聖心女子大学, 2020/3/7-8
- 61) 齊藤卓弥 . 発達の視点から見たサイコセラピーとエビデンス . 第 19 回日本サイコセラピー学会, 札幌, 2018 (特別講演)
- 62) 小野善郎, 中村和彦, 齊藤卓弥 . 国際的な視点から見たアジアの注意欠如・多動症 . 第 59 回日本児童青年精神医学会総会, 東京, 2018 (ワークショップ)
- 63) 齊藤卓弥 . 児童思春期の双極性障害の薬物療法, 第 59 回日本児童青年精神医学会総会, 東京, 2018 (ワークショップ)
- 64) 齊藤卓弥 . ADHD 治療の近未来 - 新しい薬物療法の可能性, 第 28 回日本臨床精神神経薬理学会・第 48 回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京, 2018 (シンポジウム)
- 65) 齊藤卓弥 . 拠点病院における思春期での発達障害医療への役割 . 第 6 回成人発達障害支援研究会, 札幌, 2018 (シンポジウム)
- 66) 齊藤卓弥 . 発達と生物学視点からの自殺 . 第 59 回日本児童青年精神医学会総会, 東京, 2018 (シンポジウム)
- 67) 齊藤卓弥 . 児童思春期のうつ病といらいら気分 (易怒性) . 第 59 回日本児童青年精神医学会総会, 東京, 2018 (シンポジウム)
- 68) 齊藤卓弥 . 児童思春期精神科医の養成: 自治体による寄附講座による児童思春期精神科養成プログラムの意義, 児童思春期精神医学への寄附講座の意義と課題: 札幌市による北海道大学での寄附講座設立の経験から . 第 114 回日本精神神経学会学術総会, 神戸, 2018 (シンポジウム)
- 69) 館農勝, 中野育子, 白木淳子, 館農幸恵, 金澤潤一郎, 白石将毅, 河西千秋, 氏家武, 齊藤卓弥 . 成人期 ADHD 症状評価スケール HASCAP (ハスカップ) について . 第 114 回日本精神神経学会学術総会, 神戸, 2018 (口演)
- 70) Saito T. International perspectives on ADHD, APSARD 2018 Annual Meeting, Washington D.C., 2018 (シンポジウム)
- 71) Saito T. ADHD in JAPAN, The international ADHD Congress, Tel-Aviv, 2018 (シンポジウム)
- 72) Saito T. Adult ADHD across Europe/World, 7th World Congress on ADHD, Lisbon, PORTOGAL 2019/4/25 (シンポジウム)
- 73) Saito T. Japanese Culture and ADHD, ADHD - A Critical Appraisal of Etiology, Diagnosis and Therapy - , Regensburg, GERMERNY 2019/6/13 (教育講演)
- 74) 齊藤卓弥 . 児童・青年期の精神療法 認知・行動療法を中心に . 第 20 回日本サイコセラピー学

- 会，横浜，2019/5/11-12（シンポジウム）
- 75) 齊藤卓弥．発達障害における薬物療法の中止時期についての検討，シンポジウム：発達障害の連続・不連続とそれを踏まえた薬物療法について．第115回日本精神神経学会学術総会，新潟，2019/6/20-22（シンポジウム）
 - 76) 齊藤卓弥，辻井農亜，宇佐美正英，桑原秀徳，藤田純一，根来秀樹，川村路代，飯田順三，岡田俊．ADHD薬物治療の出口戦略を考える，シンポジウム：精神科薬物療法の出口戦略を考える．第115回日本精神神経学会学術総会，新潟，2019/6/20-22（シンポジウム）
 - 77) 齊藤卓弥：児童思春期精神医療の充実に向けた地域の取り組み 札幌モデル：児童・思春期、発達障害 2，第115回日本精神神経学会学術総会，新潟，2019/6/20-22（口演）
 - 78) 渡辺隼人，下條暁司，柳生一自，曾根原剛志，白石秀明，横澤宏一，齊藤卓弥．リアルタイムコミュニケーションを計測するための dual MEG システムの構成．第34回日本生体磁気学会，函館，2019/6/21-22（口演）
 - 79) 齊藤卓弥．成人の注意欠如多動症の診断ツール．第6回アジア神経精神薬理学会大会/第49回日本神経精神薬理学会/第29回臨床精神神経薬理学会，福岡，2019/10/10-13（シンポジウム）
 - 80) 齊藤卓弥．児童思春期の発達と自殺．第27回日本精神科救急学会学術総会，仙台，2019/10/18-19（シンポジウム）
 - 81) 齊藤卓弥．思春期のうつ病へのアプローチ．日本児童青年期精神医学会総会，沖縄，2019/12/5-7（教育講演）
 - 82) 杉山紗詠子，才野均，宮内まや，田原恵，氏家武，傳田健三，田中康雄，上田敏彦，末田慶太郎，立野佳子，緑川由紀，木下弘基，中野育子，鹿野智子，館農勝，南波江太郎，花香真宣，佐藤祐基，齊藤卓弥，黒川新二．北海道胆振東部地震における子どもの心のケア～北海道子どもの心ケアチーム尾活動報告～．日本児童青年期精神医学会総会．日本児童青年期精神医学会総会，沖縄，2019/12/5-7
 - 83) 須山聡，前田珠希，中右麻理子，柳生一自，杉山紗詠子，齊藤卓弥．インターネットの利用が睡眠に及ぼす影響についての携帯型活動量計を用いた検討．日本児童青年期精神医学会総会，沖縄，2019/12/5-7（口演）
- <それ以外の発表>
- 1) 今井美穂．発達障害者の就労に関する調査研究 福祉機関と企業へのアンケートをとってみること．第6回成人発達障害支援学会，北海道・さっぽろ駅前クリニック日興ビル分院，2018/10/27-28（ポスター）
 - 2) 五十嵐美紀．診療報酬化した発達障害専門プログラムの試み．第6回成人発達障害支援学会，北海道・さっぽろ駅前クリニック日興ビル分院，2018/10/27-28（ポスター）
 - 3) 小峰洋子．発達障害診療専門拠点機関に望まれる機能について 医療機関アンケートの中間報告．第6回成人発達障害支援学会，北海道・さっぽろ駅前クリニック日興ビル分院，2018/10/27-28（ポスター）
 - 4) 小峰洋子，他．発達障害診療専門拠点機関に望まれる機能について 医療・行政機関アンケートの中間報告．日本精神障害者リハビリテーション学会第26回東京大会，東京・早稲田大学国際会議場，2018/12/14-16（ポスター）
 - 5) 五十嵐美紀，他．診療報酬化した発達障害専門プログラムの試み．日本精神障害者リハビリテーション学会第26回東京大会，東京・早稲田大学国際会議場，2018/12/14-16（ポスター）
 - 6) Makiyama Y, Kawashima M, Tagawa A, Imai M, Yamada T, Kato N. Group rehabilitation program for undergraduate students improves their social adaptation ability and prevents their dropouts. International Society for Autism Research 2019 Annual Meeting, Montreal Convention Centre, Montreal, Canada, 2019/5/1-4
 - 7) Kawashima M, Makiyama Y, Tagawa A, Sumita R, Takahashi R, Muraki K, Yamada T, Kato N. Age-related changes in autistic traits: A survey for the adults with currently high autistic traits with and without autism spectrum disorder. International Society for Autism Research 2019 Annual Meeting, Montreal Convention Centre, Montreal, Canada, 2019/5/1-4
 - 8) 川嶋真紀子，住田理加，高橋里衣奈，田川杏那．発達障害検査入院の実践報告 青年期事例を中心に．第38回日本心理臨床学会，神奈川・パシフィコ横浜，2019/6/7
 - 9) 岩波直子，満山かおる，田川杏那，反町絵美，川嶋真紀子，高橋里衣奈，住田理加，大河内範子．成人の発達障害患者の認知的特徴の検討 「発達障害専門外来におけるWAIS データからの報告」．第38回日本心理臨床学会，神奈川・パシフィコ横浜，2019/6/7（ポスター）
 - 10) 川嶋真紀子．発達障害疑いにてロールシャハテストを実施した青年期事例．第25回包括システムによる日本ロールシャハ学会，東京・跡見女子大学，2019/7/7
 - 11) 五十嵐美紀，横井英樹，岩波明．昭和大学附属烏山病院デイケアにおける発達障害支援の取り組み．第1回日本成人期発達障害臨床医学会，東京・昭和大学上條記念館，2019/7/27（ポスター）
 - 12) 反町絵美，岩波直子，牧山優．ピアサポートプログラムでの取り組み報告 個別面談と振り返りタイムの設定．第24回デイケア学会，北海道・北星学園大学，2019/9/14-15（ポスター）
 - 13) 五十嵐美紀，水野健，福島真由，今井美穂，横井英樹．発達障害診療拠点機関の設置に向けて 全国医療機関調査報告．第24回デイケア学会，北海道・北星学園大学，2019/9/14-15（ポスター）
 - 14) 五十嵐美紀，横井英樹，水野健，今井美穂．成人発達障害専門プログラムの体験会．第24回デイケア学会，北海道・北星学園大学，2019/9/14-15（ワークショップ）
 - 15) 福島真由，水野健，五十嵐美紀，横井英樹，今井美穂．成人期の発達障害者のWRAPグループに対する認識と求める工夫．第24回デイケア学会，北海道・北星学園大学，2019/9/14-15（ポスター）

- ー)
- 16) 昭和大学発達障害医療研究所, 公益財団法人神経研究所附属晴和病院, 他. 成人発達障害専門プログラム研修. 第7回成人発達障害支援学会, 愛知・金城学院大学, 2019/10/26-27(ワークショップ)
 - 17) 桑野大輔, 加藤進昌. 発達障害専門プログラム導入支援 東京都成人期発達障害者生活支援モデル事業を通して. 第7回成人発達障害支援学会, 愛知・金城学院大学, 2019/10/26-27(ポスター)
 - 18) 木村眞也, 佐々木かおり, 伊東若子, 村木健郎, 加藤進昌. 発達障害における睡眠障害合併率の調査. 第7回成人発達障害支援学会, 愛知・金城学院大学, 2019/10/26-27(ポスター)
 - 19) 高橋昌裕, 堀田和代, 船木由香里, 桑野大輔, 川嶋真紀子, 住田理加, 高橋里衣奈, 村木健郎, 加藤進昌. 発達障害検査入院における多職種連携 入院生活を通して見えたもの -. 第7回成人発達障害支援学会, 愛知・金城学院大学, 2019/10/26-27(ポスター)
 - 20) 川嶋真紀子. 青年期事例における発達障害と統合失調症の鑑別 検査入院から. 第7回成人発達障害支援学会, 愛知・金城学院大学, 2019/10/26-27(ポスター)
 - 21) 船木由香里, 桑野大輔, 川嶋真紀子, 住田理加, 高橋里衣奈, 高橋昌裕, 堀田和代, 村木健郎, 加藤進昌. 発達障害検査入院における多職種連携 入口としての入院相談. 第7回成人発達障害支援学会, 愛知・金城学院大学, 2019/10/26-27(ポスター)
 - 22) 牧山優, 川嶋真紀子, 反町絵美, 満山かおる, 五十嵐美紀, 横井英樹, 今井美穂, 太田晴久. 発達障害学生の家族が求める支援の現状. 第7回成人発達障害支援学会, 愛知・金城学院大学, 2019/10/26-27(ポスター)
 - 23) 満山かおる. 成人発達障害外来を受診する一般社会で『発達?』と言われる成人の心理検査から見た特徴. 第7回成人発達障害支援学会, 愛知・金城学院大学, 2019/10/26-27(ポスター)
 - 24) 高橋里衣奈, 川嶋真紀子, 住田理加, 田川杏那. 発達障害検査入院の実践報告 青年期事例を中心に. 第7回成人発達障害支援学会, 愛知・金城学院大学, 2019/10/26-27(ポスター)
 - 25) 川嶋真紀子, 船木由香里, 高橋昌裕, 堀田和代, 住田理加, 高橋里衣奈, 村木健郎, 加藤進昌. 発達障害検査入院における多職種連携 入院生活を通して見えたもの. 第31回東京精神科病院協会学会, 東京・京王プラザホテル, 2019/10/30(ポスター)
 - 26) 別所園美, 高橋里衣奈. 発達障害専門プログラム(デイケア)についての検討 開始から5年が過ぎた当院のデイケアについて -. 第27回日本精神障害者リハビリテーション学会, 大阪・関西大学千里山キャンパス, 2019/11/22-24(ポスター)
 - 27) 牧山優, 村上あゆみ, 桑野大輔. 発達障害をもつ未就労者を主な対象とした『就活講座』の取り組み. 第27回日本精神障害者リハビリテーション学会, 大阪・関西大学千里山キャンパス, 2019/11/22-24(ポスター)
 - 28) 松本英夫, 森隆夫, 紫藤昌彦, 齊藤万比古, 大重耕三, 館農勝, 本多奈美, 中土井芳弘, 岩坂英巳, 松田文雄, 今村明, 野邑健二, 山野かおる, 鈴村俊介, 高橋秀俊, 山下洋, 榎戸芙佐子, 齊藤卓弥. 小児精神医療委員会, 第115回日本精神神経学会学術総会, 新潟・朱鷺メッセ, 2019/6/20-22(ポスター)
 - 29) 岡田俊, 宇佐美政英, 辻井農亜, 齊藤卓弥, 根来秀樹, 藤田純一, 飯田順三. 日本児童青年精神医学会薬事委員会の活動と研究の概要 第115回日本精神神経学会学術総会, 新潟・朱鷺メッセ, 2019/6/20-22(ポスター)
 - 30) Saito T, Tsujii N, Okada T, MD, Usami M, Kuwabara H, Fujita J, Hideki, Negoro H, Kawamura M, Iida J. Effect of continuing and discontinuing medications on quality of life after symptomatic remission in attention-deficit/hyperactivity disorder: a systematic review and meta-analysis. The American Professional Society of ADHD and Related Disorders 2020 Annual meeting, Washington, DC(ポスター)
- G. 知的所有権の取得状況
1. 特許取得
該当なし
 2. 実用新案登録
該当なし
 3. その他
該当なし